

予習の意味を知り、予習の仕方を身に着けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
先週の「開倫塾の時間」では、第10回全国模擬授業大会についてお話させていただきました。授業の仕方を工夫することによって、教育のレベルが上がるというお話でした。
2. 今日は、教わるほうの立場で、予習はどのように行ったらよいのかについてお話させていただきます。前々回も予習のお話をしましたが、「予習は、わからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」というのが、私の基本的な考えであり、予習の意味です。つまり、学校の教科書や学校・学習塾・予備校の様々な教材を授業前に徹底的に勉強し、わからないことをはっきりさせてから授業に臨むのが予習の意味だと思います。
3. 小学生のうちは、復習中心でよいと思います。ただ、中学生の高学年・高校生・短期大学生・専門学校生・大学生・大学院生と、学年が上がれば上がるほど学習内容がだんだん難しくなってきますので、授業で初めて聞いてすべてを「理解」し、すべてを身に着けることは困難を極めます。ですから、上の学年になればなるほど十分に予習をし、何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むことが大切です。すると、授業で「これはこういうことなのか」としっかりと「理解」できる可能性が高くなると思います。つまり、「予習は、わからないことをはっきりさせてから授業に臨むためにあるのだ」という考えで予習をすると、授業内容の「理解」が高まります。そのためにも、できれば中学生や高校生のうちに予習の仕方を身に着けていただければと思います。
4. 前々回もお話しましたが、予習の仕方は教科によって異なります。例えば、数学は初めに教科書をよく読み、すべての問題をノートにゆっくりゆっくり解いていきます。これが一番簡単で、標準的な予習の仕方です。このときにわからない問題があったら、教科書やノートに「これがわからない問題だよ」という印をつけておきます。そして、そのところを授業で集中的に聴いて「理解」に努めます。
5. どのようにしても数学が苦手だという人は、本屋さんで「教科書ガイド」という虎の巻を購入して利用するのもよいでしょう。教科書の問題を解いてどうしてもわからない問題については、学校の先生の授業をお聴きするようつもりで教科書ガイドをゆっくり読み、それを書き写してください。これも予習の1つです。それでもわからない場合には、授業をよく聴いて「理解」に励むこと

が大事だと思います。問題には、易しいものも難しいものもあります。易しい問題ほどまずは自分の力で解き、わからない問題は教科書ガイドなどの参考書を開いてどのような考え方をするのか・解き方をするのかを確かめることが大事です。

6. 国語は、初めに教科書をよく読みます。そこに意味のわからないことばがあったら、必ず辞書を引いて意味を調べます。そして、それをノートに書き写し、その場で覚えてしまうことをお勧めします。国語に限らず、理科・社会・英語についても音楽・保健体育・美術・技術家庭の実技科目についても、教科書を読んでいて意味のわからないことばがあったら、国語辞典や英和辞典を引いて意味を調べましょう。漢字の読み方がわからない場合は、漢和辞典で調べてください。ところで、今の小学生や中学生などは漢和辞典ではなく、漢字辞典を言うようです。また、英語は発音記号を覚えた上で、読めない英単語の発音記号をノートに書き写して読めるようにするとよいでしょう。

7. 繰り返しになりますが、すべての教科について読み方や意味のわからないことばが出てきたら、必ず国語辞典・英和辞典・漢字(和)辞典で調べるのが大事です。ただし、理科や社会の用語には、国語辞典に載っている意味ではなく、その科目特有の意味があります。それは、各科目の用語辞典で調べましょう。用語辞典には、特有のことばの意味が詳しく説明されています。例えば、社会の教科書には日本国憲法・基本的人権・国民主権・平和主義などの用語が出てきます。しかし、それらの詳しい意味は国語辞典には書いてありませんので、社会の用語辞典で調べてください。このようにして、授業の前に教科書を読み、わからないことをできるだけなくしてから授業に臨むのが大事であると思います。

8. さらにお勧めしたいのは、例えば国語の教科書に芥川龍之介の作品が出てきたときは、芥川龍之介のほかの作品も読んでみることです。また、教科書には作品の一部分しか載っていないことがありますので、その場合は図書館や本屋さんに行って全文を読んでみることです。芥川龍之介には「トロッコ」という有名な短編があります。それを学習して気に入ったら、「蜘蛛の糸」という短編やいろいろな長編も読んでみるとおもしろいと思います。

9. 夏目漱石の「坊ちゃん」に興味を持ったら全文を読み、ほかの作品も読んでみましょう。「枕草子」も教科書に出ているものはごく一部です。本屋さんで購入したり図書館で借りたりして、1冊全部を読むことをお勧めします。古文のまま読むのが一番ですが、それが大変であれば現代語訳で読むのも素晴らしいです。このようなことも、素晴らしい予習になります。

10. 予習の意味とは、わからないことばをはっきりさせてから授業に臨むことです。ですから、以上のことを参考にして予習の仕方を身に付けていただきたいと思います。